



医療法人社団玲瓏会
金町中央病院



ささえあい

主な記事

- ・チーム医療体制のご紹介
- ・とろみ勉強会のご報告
- ・医事課実習生のご紹介
- ・8月外来担当医表
- ・病院からのお知らせ

第35号 平成27年8月	隔月発行
医療法人社団玲瓏会 金町中央病院	発行元 東京都葛飾区金町1-9-1
病院長 野田 剛	TEL 03-3607-2001
担当部署 広報チーム	FAX 03-3607-2082 http://www.reiroukai.or.jp/

* チーム医療体制のご紹介 *



金町中央病院内科部長・診療部長の関川と申します。
今回は『当院のチーム医療体制のご紹介』というテーマで『当院内科における、入院患者さんの病棟カンファレンス』の取り組みについてご紹介申し上げます。

当科では私が部長職に着任した平成20年4月より今日まで、毎週1回必ず、内科入院患者さんを対象とした「症例・医療連携カンファレンス」(＝内科カンファ)を実施して参りました。

これは「医師(担当医)」「看護師」「薬剤師」「管理栄養士」「メディカルソーシャルワーカー(MSW)」「理学・言語・作業療法士」「医事課」の各職種スタッフが一堂に会し、内科病棟の看護ステーションで午後の1時間半程度、入院症例全例の現状と方針について協議する、というものです。

このカンファレンスの主目的は、葛飾区をはじめとする周辺地域の患者さんが抱える様々な問題をスタッフ全員で考え、全人的にケアしよう、というものです。

時としてその問題は医療だけにはとどまらず、介護・福祉など社会的な部分にも大きく関わって参ります。

7年間にわたり行われている内科カンファを通じて、当院のスタッフはそのことを深く考察し、「我々が今、何をすべきか」についての自覚をもって仕事に励んで参りました。

そして、当科にご入院された患者さんは、担当医だけではなく様々な職種のスペシャリストの専門的意見が反映された診療方針に基づき、適切かつ、より総合的・全人的な診療を受けることが可能となります。

それは必ずや患者さんおよびそのご家族にご満足いただけるものであると自負しております。



* チーム医療体制のご紹介 続き *

当科に入院する患者さんは年齢層も疾患も幅広く、患者さん個々の背景もそれぞれ異なっています。その結果、たとえ同じ疾患であっても、一人一人がかかえる問題点は大きく異なってきます。

そこで、週1回の内科カンファでは疾患の病態、栄養状態、ADL（activities of daily living）、および社会的問題点（家族背景、住宅環境）などを幅広く抽出し、参加コメディカルスタッフ全員に広く意見を求め、治療方針、検査方針、退院方針を決定し、各部署はその情報を共有することで一致団結し診療にあたっています。

診療方針に関しては、やはり我々医師が主導となってくるのは当然ではありますが、一方的な情報・方針の押しつけをするのではなく、コメディカルと平等の立場で全員が気軽に活発に意見を言える空間を作るよう努めております。

その結果、時にはスタッフから驚くような新しい知見が得られることもあり、参加者全員にとって非常に勉強となる有意義な場所となっています。

また、内科カンファの協議は薬剤の適正使用、入院期間の適正化などにも大きく寄与しており、社会における病院の正しくあるべき姿につながるものと考えております。



内科カンファの内容および決定事項・方針は一昨年9月より導入された電子カルテを通じて院内全部署に迅速に通達。その一部は各部署を通じて患者さんおよびそのご家族にもご連絡させていただき、当院スタッフからのきめ細やかな説明と実施をもって診療に反映させていただいております。

具体的には、患者さん個々に医師からの病状説明の場を設け、そこで様々な治療方針、介護方針の選択肢を提示しそのメリット、デメリット、将来の見通しなどを必ず提示します。

また、本年1月より病院隣に稼動したりハ棟でのリハビリテーションを行うことでADL改善に努め、病気が軽快し退院可能となった暁には個別の栄養指導、服薬指導を行い、必要あらば周辺地域の医療機関と連携の下、責任をもって病院紹介などもさせていただいております。

このように、当院ではひきつづきチーム医療を率先して行い、患者さん全員が安心・安全な医療が受けられるよう配慮・努力して参る所存ですので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。



とろみ勉強会のご報告



7月7日・9日に、院内看護スタッフにむけてリハビリ科古田言語聴覚士により「水分、とろみについて」の勉強会が開催されました。実際の現場では、スタッフによって作り方が異なっている場面もしばしば見受けられており、専門スタッフから学びたいという要望も出ていました。

勉強会の内容としては“なぜ誤嚥するのか？”を嚥下のメカニズムや実際の画像を見ながら再学習する事からはじまり、実際にトロミの違いを飲んで比較、確認しました。当院使用のトロミ剤を用いて、適切なトロミの作り方、分量を確認、合わせて開口拒否の強い患者さんの場合や姿勢についても資料と説明がありました。

この勉強会后には、お茶の量に対する適切なトロミ剤の計量表とそれに合わせた計量スプーンが病棟に配布され、実践に繋げています。

今後も専門知識を持ったスタッフの協力により患者さんがより安全で快適な入院生活を送れるよう院内研修会を積極的に開催していきます。



まめ知識

誤嚥やムセが何故起こるのでしょか？

人は口から喉に送り込み気道を閉じて食道を開くという複雑な協調運動で物を飲み込んでいます。加齢などによって筋力の低下等が起こるとこれらの動きが緩慢になるため

液体が口から喉に到達してから嚥下（ごっくん）までの時間がゆっくりになります。

水は流れるスピードが速いため反射が起こる前に気道へ入り込んでしまい「ムセ」が発生するわけです。



医事課実習生のご紹介



6月15日から4週間、東京医療秘書福祉専門学校の学生3名が実習中です。

主に医事課へ配置され、窓口対応をはじめとしたカリキュラムに沿った実習を行っています。

当院の実習では実際の医療現場を知ってもらう為、手術室や透析室など院内見学や窓口対応を重点的に行っています。

実習中は常に前向きで、実際の医療現場を体験し新しい発見が毎日あるそうです。窓口実習では、明るい笑顔で患者さんと接しています。どうぞ宜しくお願いします。

8月の外来担当医表（下線は常勤医師） 赤字は女性医師です

		月	火	水	木	金	土
内科	A M	<u>関川</u> <u>草間</u>	福田 佐藤(太) 田尻	<u>横山</u> 宮塚(糖尿病) 青山	<u>関川</u> 松本(糖尿病) <u>草間</u>	<u>横山</u> 梅本 <u>佐藤</u>	小山 石川
	P M	<u>伊藤</u>	<u>関川</u> 佐藤(太)	南 宮塚(糖尿病)	梅澤 松本(糖尿病) 河田(腎臓・透析)	星野	高嶋(1週) 押川(2週) 星野(3・4・5)
外科	A M	<u>野田</u>	<u>吉永</u>	<u>吉永</u>	<u>野田</u>	村田	<u>野田</u>
	P M		山下		田中	下山	吉永(1・3・5) 尾高(2・4週)
整形外科 リウマチ科	A M	<u>齋藤</u>	<u>角田</u>	<u>渡部</u>	<u>齋藤</u>	<u>角田</u>	非常勤医
	P M	<u>齋藤</u>	<u>角田</u> ※1	<u>渡部</u> ※1	<u>齋藤</u>	<u>角田</u>	非常勤医
婦人科	A M	<u>石毛</u>					木村
	P M						木村
泌尿器科	A M		<u>熊野</u>	<u>熊野</u>		<u>熊野</u>	鈴木(1・3・5)
	P M	<u>山田</u> (1・4・5) <u>清田</u> (2・3)		<u>清田</u> (1・3・5週) <u>山田</u> (2・4週)	坂東		鈴木(1・3・5)
脳外科	A M			<u>佐々木</u> (1・3) <u>島</u> (2・4)			

※ 診療時間については各科によって異なります。※当日の変更もございます。事前にお問い合わせください。
※1 手術等のため休診となる場合がございます。

特定健康診査はもう受診されましたか？ 8月末で終了です！

葛飾区の国民健康保険に加入している40歳～74歳までの方を対象とした無料の特定健康診査は残すところ今月のみとなりました。対象の方には、葛飾区より5月末に受診票などが郵送されています。保険証も一緒にお持ちいただき、受診してください。

毎年8月の最終週は混雑しております。
お早目の受診をお勧めいたします。



長寿医療健康診査のお知らせ

9月から長寿（後期高齢者）医療健康診査がはじまります！
後期高齢者医療制度に加入している区民の方を対象とした健康診査がはじまります。受診できる期間は、平成27年9月1日～平成27年10月31日までとなります。対象の方には、受診券などが入った封筒が区より8月末までに郵送されますので、必要事項をご記入のうえ受診してください。ご不明な点等ございましたら、ご遠慮なく受付にお尋ね下さい。年に1回の無料健康診査です。ぜひご利用ください！